

NO! リニア

No. 162

2022年11月30日

JR東海労働組合

JR東海労HP
にアクセス



大井川水問題パンフは問題だ！⑫

「結果を公表します」は信用できるのか？ JR東海は隠蔽体質の会社だ！

パンフの質問7は「調査・計測（モニタリング）の結果は、公開されますか？」です。回答は「モニタリングの結果を随時静岡県等に報告したり、専門家に助言を頂いたりするための管理体制をつくります」「トンネル掘削に伴う変化を早期に検知するため、川を流れる水、地下水、トンネル内に湧き出る水の量や水質等のモニタリングを行い、結果を公表します」としています。つまり、情報やデータは包み隠さず明らかにするという事です。

しかし、JR東海がそれを守るといえば、大いに疑問です。なぜならば、JR東海がこの間行ってきたこと、言ってきたことが事実と反するからです。例えば、会社は「住民に真摯に説明してきた」と言ってきましたが、結果は住民の反発の連続で、何一つ疑問に答えていないからです。訴訟が起きているのは、何よりの証左です。

これはまだまだ序の口です。今回の突発湧水についても、JR東海の非公開資料があったにもかかわらず、国土交通省の専門家会議で説明されなかったことが報道で暴露されました（2020年9月10日、静岡新聞）。それに関連して、2013年3月に作成された畑薙山断層以外にも少なくとも5ヶ所で高圧湧水が発生する可能性がある旨の報告書を、中間報告書の取りまとめ後になって開示するといった隠蔽工作を行っていました。

また、JR東海が2012～2014年に岐阜県で調査した地下水検査で、基準値を超える水銀が検出されたにも関わらず、県に報告しなかったことが明らかになり、2016年2月になって岐阜県が発表した事象がありました。

以上のように、都合の悪いことは隠蔽し、ウソを平気でつくような会社は信用できるのでしょうか？騙されてはいけません。